

専務理事退任のご挨拶

一般社団法人情報通信技術委員会 参与 前田 洋一



拝啓 新春の候、皆様には益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます

TTC 会員の皆様には、新型コロナウイルス感染拡大の中で、不自由な職場環境にもかかわらず、TTC でのオンライン形態での各専門委員会活動、セミナー企画運営などにご尽力をいただきありがとうございます。お陰様で、2020 年度事業計画での標準化作業をほぼ達成できる見込みであり、皆さまのご貢献に御礼を申し上げます。

10 年前、私は 2010 年 10 月 1 日付けで、井上友二理事長のご退任にともない、後任として専務理事に就任しました。その後、TTC の一般社団法人化への移行、業際イノベーション本部の設置、フォーラム標準とデジュール標準との連携強化、新規課題対応の新専門委員会（光ファイバ伝送、番号計画、セキュリティ、OneM2M、コネクテッドカー、AI 活用、IoT スマートシティ）の設置、アジア新興国を含む様々な国際標準化機関との連携強化、標準化人材育成のための標準化テキストの作成公開など、皆様のご支援のお陰で、充実した TTC での業務を担当させていただきました。しかし、私は、気づいてみれば高齢者の仲間入りをしていました。

今後の TTC 運営の活性化と更なる発展を図るため、私は、2020 年 12 月 31 日をもって、TTC の代表理事専務理事の職を退任させていただきました。後任には、2020 年 12 月の理事会及び臨時総会でご承認をいただき、NTT 出身の岩田秀行さんに引き継ぐこととなりました。

国際標準化における役職のうち任期満了となった APT（アジア・太平洋電気通信共同体）の ASTAP（APT 標準化プログラムフォーラム）の役職については、2020 年 11 月 10 日の ASTAP 会合で私は議長を退任し、今まで副議長の Hyung Jun Kim 氏（韓

国 ETRI）に議長を引き継ぎましたが、岩田さんには次期役職候補として、副議長にご就任頂きました。

当初の 2020 年度計画では、ITU-T の最高決定機関で 4 年に一度開催される WTSA（世界電気通信標準化総会）が 2020 年 11 月 16 日～27 日にインドのハイデラバード開催で、現地での会合対処が予定されていました。しかし、コロナ禍の拡大が進む中で、WTSA ホスト国のインド政府から、2020 年 6 月の ITU 理事会において、2021 年 2 月末に開催延期が提案され、日程変更が正式決定されました。ところが、コロナ禍の収束が見られない状況で、インド政府は 2020 年 11 月の ITU 理事会において、WTSA の再延期を提案し、1 年 4 か月遅れの 2022 年 3 月 1 日～9 日の開催日程での再延期の調整が進んでいます。

WTSA への対処については、APT における WTSA-20 準備グループが 2019 年 7 月に発足し、私はその議長に就任しました。4 回の準備会合を経て、2020 年 11 月、WTSA への APT 共同提案の準備が完了したところです。WTSA 開催が再延期された場合、その議長任期は 2022 年 3 月の WTSA 終了まで延長されることになり、追加の準備会合や WTSA 本番の現地対応など、WTSA に関して私に与えられた責任は果たしたいと思います。

私が専念してきました標準化人生を振り返りますと、私は、1980 年に NTT（当時は電電公社）の電気通信研究所に入所し、26 年間、主に、ブロードバンドネットワークおよび光アクセスシステムの国際標準化を含む研究開発に従事してきました。その後、約 4 年間、NTT アドバンステクノロジー株式会社で標準化推進の業務を担当しました。この 30 年間で、1988 年 4 月から一年間、英国電気通信研究所（BT）の交換研究員として留学する機会を与えられ、帰国後

の1989年から、ATM (Asynchronous Transfer Mode) や FTTH (Fiber To The Home) の研究成果を国際標準化に生かすために、DAVIC (Digital Audio Visual Council) や FSN (Full Service Access Network) というフォーラム系の標準化とともに、ITU-T (当時は CCITT と呼ばれていた) におけるデジュール系の国際標準化に深く関わり、諸先輩のご指導のおかげでいくつかの役職を与えていただき、貴重で有意義な経験を積むことができました。

標準化会議の役職確保に関しては、特に、浅谷耕一先生 (工学院大学名誉教授) の ITU-T の SG13 副議長職を引き継ぐのをきっかけに、2000年から SG13 副議長を1会期、2004年からは SG15 議長を2会期8年間担当させていただきました。TTC に異動してからも継続し、2012年から ITU-T の新組織である Review Committee 議長、2016年からは TSAG の標準化戦略レポートを担当させていただきました、並行して、APT では2014年から ASTAP 議長を7年間担当させていただきました。

日本が新規課題の標準化推進を主導し、仲間作りのための有益な人的チャネルを確保するうえで、標準化機関におけるリーダーシップの確保は重要であり、役職者として標準化現場から得られるホットな情報を日本の標準化戦略の検討の一助とすることができたかと思えます。

今まで TTC は、日本における情報通信分野の標準化機関 SDO (Standard Development Organization) として、インターネット・モバイルの発展、通信のグローバル化など、情報通信ネットワークの発展に寄与してきましたが、今日では、産業・技術革新が世界的に進みつつあり、あらゆる産業において、既存事業のデジタル化によるビジネスモデルの転換を意味する「デジタルトランスフォーメーション」が急速に進展し、更にコロナ禍がこの転換を加速させていると思えます。

これからの TTC が目指すべき方向は、世界をリードする企業の多くが、デジタル化された基盤の上に、それぞれの技術やサービスを持ち寄ることで全体が機能する仕組み「エコシステム」を作り上げ、利益を共有する協業体制を実現し、急速な ICT の発展に伴う

サービスの多様化やビジネスのグローバル化が進む中、一社単独で開発競争力を維持することは容易ではない時代となっていることを踏まえ、既存の枠組みを超えて技術やアイデアを集約し、短期間で新製品や新サービスを開発する「オープンイノベーション」に注目すべきではないでしょうか。また、「エコシステム」の拡大には、標準を活用して他社に自社の技術をオープンにすることで利益を得るオープン戦略と、知財などを駆使したクローズ戦略の両輪が必要となり、新しいビジネスを創出し、そのグローバル展開を加速させる国際標準の活用がますます重要性を増すと思えます。

標準化活動の範囲は、従来の標準文書を作成作業だけでなく、技術面のみならずビジネス面から支える活動に拡大しています。一方で、国連が採択した「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」の達成に向けて、国内外問わず企業が果たす役割はますます高まっています。TTC においても社会課題の解決に向けて時代の流れを先取りする議論を行ない、的確な標準化テーマの設定や国際標準化の推進などに貢献するとともに、ICT を活用した事例の創出・展開などその普及活動を推進することが期待されています。

TTC が、日本の国際競争力強化に向けて、総務省などの政策に連携し、タイムリーな標準化アップストリームおよびダウンストリーム活動はもとより、デジュール標準とフォーラム標準、サービス・アプリケーションレイヤのオープンソースソフトウェアの動向に柔軟に対応できるよう、今後も組織や運営体制を柔軟に見直すとともに、各種グローバル標準化機関との連携強化、アジア諸国並びに周辺諸国との標準化連携の推進、さらに、IoT によるスマートシティ実現に向けた分野横断的な活動を戦略的に進めていくよう、新生岩田 TTC に期待しています。

最後に、TTC が、標準化の推進と普及活動を通じて日本の国際競争力の向上に貢献できるよう、皆様方のさらなるご支援ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。